学校番号	3037

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ３年理科	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「現代文Ｂ　改訂版　下巻」（大修館書店）						
副教材等	「トータルサポート 新国語便覧」（大修館書店）、「品詞別 頻出漢字マスター３０００」（尚文出版）、「新演習 現代文アチーブ４」（桐原書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・第三学年では、基礎的な国語力をより実践的なものへと養っていきましょう。一学年、二学年で読んだ様々なジャンルの文章で蓄えた知識をもとに、思考力、読解力を深めていきましょう。
・グローバル・リーダーとなることを目指して多様な文章を読み、ものの見方や感じ方を広げ、深めるとともに、自身の考えを的確に表現する力を向上させていきましょう。
・自身の考えを的確に表現できる記述力を培うために、語彙力を深め、言葉の一つ一つに注意を払っていいきましょう。
・教科書掲載の作品にとどまらずに日頃から多様な文章を進んで読む機会を作り、読書を通じて語彙力や知識を身につけていきましょう。

2　学習の到達目標

・近代以降のさまざまな文章に触れ、読解力・思考力・表現力を養う。
・多様な文章の読解を通じて国語力を伸ばすとともに視野を広げ、豊かな人間性を育むことをめざす。
・自身の主張を明確に表現できる記述力を身につける。
・語彙、漢字、伝統的な言語文化に対する興味関心を深め、必要な知識を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、言語文化への自己の理解を深めようとしている	目的や場に応じて効果的に話したり他者の意見を的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取り、視野を広げ、自分の考えを深め、発展させている。	語彙・漢字・伝統的言語文化についての理解を深め、必要な知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等の評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙） 定期考査	記述の確認及び分析 （ワークシート） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
一学期	評論一	教材: 「『贈り物』としてのノブレス・オブリージュ」	○			◎	○	a:「ノブレス・オブリージュ」を自分にひきつけて考えようとしている。 d:「ノブレス・オブリージュ」の一般的な意味と、本文での意味の違いを理解している。 e:語彙を増やし、本文中の語を用いた熟語を書くことができる。	a、d、e: 行動の観察と分析、及び定期考査
		教材: 「日本文化の三つの時間」	○		◎		○	a:日本の文化、特に古典に対して興味を持ち、筆者の考え方、論理をたどることに意欲を持っている。 c:筆者の主張を把握して、わかりやすく文章にまとめている。 e:本文中の和歌の内容を理解している。	a、e: 行動の観察と分析、及び定期考査 c: 記述の確認及び定期考査
	評論二	教材: 「風景はどのようにして立ち現れるか」	○		◎		○	a:身近な風景というテーマに対して認識を深めようとしている。 c:段落ごとの要旨をつかみ、段落間を論理関係に注意しながら適切な文章でつないでいる。 e:風景について考えることが、文学・美術・建築等、ほかの分野にまで関連することを理解している。	a、e: 行動の観察と分析、及び定期考査 c: 記述の確認及び定期考査
		教材: 「猫は後悔するか」	○	◎			○	a:教材文を通じて、歴史というものへの認識を深めようとしている。 b:筆者の「歴史」観に対する自分への意見を明確にして、話し合いに参加している。 e:筆者についての知識を持っている。	a、b、e: 行動の観察と定期考査

二学期	評論三	教材： 「リスク社会としての現代」	○			◎	○	a:近代における様々な問題について、関心をもって読んでいる。 d:「リスク社会」の特徴について、文章を読み、把握できている。 e:論理構成を正しくつかんでいる。	a、d、e: 行動の観察と分析、及び定期考査
		教材： 「こころは見える？」	○	◎			○	a:教材に興味を持って、意欲的に学習に取り組んでいる。 b:「こころは見えると思うか」について、自分の考えをわかりやすく話している。 e:「文楽」や「歌舞伎」について大まかな知識がある。	a、b、e: 行動の観察と定期考査
	小説一	教材: 「舞姫」	○			◎	○	a:文語文で書かれた小説を読み、そこに描かれた内容を理解して味わおうとしている。 d:時代背景をふまえて登場人物の言動・心理を読み取り、人間の生き方について考えを深めている。 e:森鷗外の文学史的位置づけについて理解している。	a、d、e: 行動の観察と分析、及び定期考査
三学期	評論四	教材: 「陰翳礼讃」	○			◎	○	a:視野を広げ、思考しながら文章を読もうとしている。 d:日本の文化について、表現上の特徴に注意しながら読み取り、自己の見識を広げられている。 e:語彙の意味を正しく理解し、漢字を正しく読み書きできている。また「陰翳」に対する筆者の考え方を理解している。	a、d、e: 行動の観察と分析、及び定期考査
	小説二	教材: 「赤い繭」	○		◎		○	a:虚構なるがゆえのおもしろさや批評性に気づき、積極的に感想を述べ合おうしようとしている。 c:場面の展開に即して、主人公の心の移り変わりをまとめられている。 e:作者についての知識を持っている。	a、e: 行動の観察と分析、及び定期考査 c: 記述の確認及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c：書く能力
d:読む能力　　e:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については全ての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話す・聞く能力」・「書く能力」・「読む能力」）に関わる観点には◎を付けている。